

年頭のご挨拶



大阪早稲田俱楽部会長
校友会大阪府支部支部長
角 和夫

「大阪に早稲田あり」の存在感を—

新年明けましておめでとうござい
ます。皆様には良き年をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素は俱
楽部の運営、活動にご理解とご協力
を賜り、厚く御礼申し上げます。

年の初めは箱根駅伝。後輩諸君の
活躍は見事でした。昨年の出雲駅
伝、全日本駅伝と合わせ、学生駅伝
3冠の栄誉です。応援にも本当に熱
が入りました。輝かしい年明けで喜
ばしい限りです。昨年秋の野球もそ
うです。主将の斎藤佑樹投手を中
心に6大学の慶應との優勝決定戦
を制し神宮大会の優勝も果たしま
した。プロ野球のドラフトでも斎
藤、大石、福井の3投手が1位指名
され、まさに黄金の輝きです。アメ

リカンフットボールの甲子園ボウル
では惜しくも優勝を逃しましたが、
競合ひしめく中での8年ぶりの東日
本代表でした。剣道では、男子が45
年ぶり2度目の優勝、女子が初優勝
というアベック優勝の快挙を遂げて
います。

スポーツ界だけではありません。

全日本大学団体選手権でも3年ぶり
10度目の優勝を果たしています。後
輩諸君の頑張りに私たち大いに勇
氣づけられております。

さて、世情は内外とも不透明で嚴
しい時代が続いています。常識を覆
し、価値観を揺るがせるような事態
が起きるものも珍しくありません。社
会の構造や意識が大きく変化を遂げ
ようとしているこの混沌の時代こそ、早稲田マンの持つ進取の精神、
気概、知力、チャレンジ魂、突破力
が必要とされます。皆様はそれぞれ
の分野におきましてその力を存分に
発揮されておられると思いますが、
時代を担い、切りひらく率先垂範の
有為の人材としてその役割がいっそ
う期待されるところであります。

歴史と伝統の大蔵早稲田俱楽部は
会員相互の親睦と啓発をはかる一方
で、早稲田建学の精神を体し、社会
の発展に寄与することを目的として
おります。集まり散じて人は変わ
ります。集まり散じて人は変わ
ります。

大阪をもつと元気に—



大阪早稲田俱楽部理事長
人見 亨

百余名の会員が世代を超えてコ
ミュニケーションを図り、自由闊達
に切磋琢磨しております。昨年は事
務局を移転し、財政基盤を確固とす
るための改革にも取り組みました。

さらに会員増を図るために知恵をじ
ぼっておりました。今後も充実した意
義ある活動を続け、さらに校友会大
阪府支部の約八千人の校友との連携
をいっそう強めて幅を広げ、「大阪
に早稲田あり」の存在感を示したい
と思っております。皆様にはいつもそ
うのご協力を願いするとともに、仲間の輪を広げることのお力もぜひ
お借りしたい所存です。よろしくお
願いいたします。

最後になりましたが、本年も皆様
にとって幸多い実り豊かな年であり
ますよう祈念して、新年のご挨拶と
おめでいただきます。

これまで想定しえないような事
態も生じており、閉塞感に包まれ、混沌とした社会の中で私たちが
確固たる歩みをどう進めていくか問
われることになります。非常に厳しい
時代ですが、現実を避けて通ること
はできません。

このような情勢では暗澹たる思い
にならざるを得ませんが、この1年の
早稲田のスポーツ界をはじめとする
後輩たちの活躍に胸躍らされました。
とりわけ、箱根駅伝の18年ぶり
の栄冠です。高校のころから全国級
だった選手も大学に入ってから芽を
出した選手もともに栄光のたすきを
つなぐドラマに感動しました。日々
の苦しい練習に耐え、目標に向か
て一途に頑張る後輩たちの姿に勇気
づけられました。

さまで謹んで新年のごあいさつを申
し上げます。平素は俱楽部の運営、
活動にご支援をいただき、厚く感謝
申し上げます。

新年は山陰地方をはじめとして大
雪に見舞われての幕開けとなりま
した。政治、経済を見ましても、手詰
まり感が広がり、混沌の度合いは高
まっていると言わざるを得ません。
政局、税制、年金ほか先行きは不透
明で、依然として樂觀できない状況
が続いています。世界に目を轉じま
しても、朝鮮半島問題や中国の外交
戦略などへのわが国のぶれない対応
が課題となっております。

また、内部告発サイトのウイキ
リータスによる機密情報の暴露な
ど、これまで想定しえないような事
態も生じており、閉塞感に包まれ、
阪を活気づける一助になったのではないか
と思い、みなさまに心から感
謝するものであります。

特に、校友会125周年記念事業
として企画しました昨秋のゴルフ大
会、年初の文樂鑑賞会が俱楽部会員
や近隣支部のご参加を得ながら盛況
に開催できることは心強く、また大
阪を活気づける一助になったのでは
ないかと思い、みなさまに心から感
謝するものです。

大阪早稲田俱楽部も多士済々の
有為の人材で構成されています。大
阪をもっと元気に、関西にいっそう
の力を。本学の理念を大阪でも関西
でも推し進め、グローバルな活気あ
ふれる魅力いっぱいの地にしていき
たいと思っております。後輩たちの
頑張りに負けず、みなさまとともに
に、元気・活気といったすきを多く
の人につないでいきたいと願ってお
ります。わが俱楽部から元気・活気
を発信しようとの気概で、年配のメン
バーから若い会員さんまで手を携
えて、明るく張りのある活動を続
けていきたいと存じます。ご協力、
ご支援のほどよろしくお願ひいたし

伝統芸に酔いしれて

校友会125周年記念

文楽観劇

校友会創立125周年を記念し、大阪を代表する伝統文化・芸術の文楽観劇会が1月15日、日本橋の国立文楽劇場で開かれた。

校友会大阪府支部が大阪早稲田俱楽部と協力して開催したもので、校友ら220人が参加した。

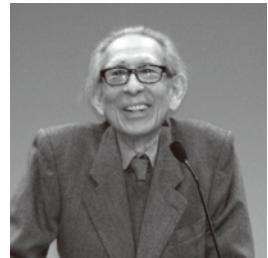
観劇に先立ち、特別プログラムとして、同劇場小ホールにおいて早稲田大学演劇博物館

の元館長の鳥越文蔵・早大名誉教授が文楽の魅力を解説。人形浄瑠璃から文楽と呼ばれるようになった由来や世界遺産の指定を受け、世界に誇る伝統芸であることなどをわかりやすく説明した。

続いて、鳥越先生の授業を受けたことがあらるという早大OBの人形遣い吉田勘緑さん(55)が人形の仕組みや動き方、表情

を見ては初めてといふ参加者も少なくなかつたが、「鳥越先生らの解説を聞いたのでわからやすかった。こんなに楽しいものならもっと早く見に来ればよかった」などと好評だった。

「こんなに素晴らしい伝統芸はない」と文楽の面白さを語る鳥越先生



早稲田のグローバル化を推進——鎌田総長 校友会支部総会で講演



第一部は大学案内・説明会と父母懇談会のほか、父母との個別相談が行われた。第二部は、

11月5日に第16代総長に就任したばかりの鎌田薰総長が「早稲田大学の明日を考える」のテーマで、山川宏・創造理工学部教授が「早稲田大学における宇宙工学教育・研究」と題してそれぞれ講演した。

たな時代に立ち向かうために①グローバル化の推進②学生の基礎力の養成③人間力を涵養してきた多様性の堅持

——の3点を挙げ、「校友とも連携を強め、早稲田だけでなく日本社会

国際社会の発展に尽力したい」と述べた。

続いて開かれた校友会大阪府支部総会では、支部長に角和夫氏(昭48年政経)を再任、副支部

長に向井利明(昭44年政経)、人見亨(昭45年理工)、福井澄郎(昭45年政経)、吉川一三(昭45年商)、西田隆郎(昭47年商)の5氏を選任し、幹事長に石戸稔氏(昭55年法)を新たに選任した。

第三部の懇親パーティーには、説明会や懇談会に参加した父祖らも加わり、鎌田総長らを囲んで交流を深めた。

(広報委員会)

俱楽部新年会 飛躍の年に



肩を組んで「早稲田の栄光」を声高らかに



はつらつとした松田さんのリードで校歌齊唱

を語った。

続いて、乾杯の音頭をとった人見亨理事長(昭45年理工)が「俱楽部、校友会ともども今年も元気盛り上げていきましょう」と高らかに杯を掲げた。

歓談では、文楽公演と箱根駿伝の快走の楽しく明るい話題が持ち

だという事が目立つた。次世代のために明るく前向きに進もう」と元気づけ、拍手に包まれた。締めは、松田三郎さん(昭28年法)のリードで校歌、「紺碧の空」

齊唱と続き、肩を組んで輪になっての「早稲田の栄光」をともに歌い上げた。



～第30回食べ歩き会～

イタリア料理の真髓に満足

人気の「食べ歩き会」は30回を数え、11月26日、中之島のイタリア料理店「アゴラントン」で豪華なイタリアンと洒落込んだ。

この会は、北原仁巳さん（昭36年法）の蓄たっぷりの解説が楽しみの一つだが、今日はこのレストランのシェフで、元辻学園調

理専門学校・イタリア料理主任教授だった日野友一さんに案内いただいた。

参加したのは30人。

レストランは中之島プラザ17階で六甲の山並みや遠く明石大橋が見渡せるという絶好のロケーションだが、テーブルに出されるすばらしい料理の数々に眺望もそっちのけ。

鴨胸肉のソテー杏ソース、蝦夷鹿肉の煮込み獣師風色々なキノコ添え、イタリア産ゴルゴンゾーラチーズとグリーンペッパー入りスパゲッティ、金目鯛のソテー・フレッシュトマトソース・・・。

フランス料理のルーツはイタリアンだそうだが、どこがどう違うのかよくわからないままでよし。

「楽しく作り、美味しい食べていただき、喜んでもらう」という日野シェフに料理の解説もしていただいたが、どれもこれも満点、満点。味はもちろん、彩りも盛り付けも最高だ。

口の中で広がる旨味、甘味、酸味、辛味、その他いろいろ。そのままごっくんしてしまうのが惜しいほどだ。デザートのリンゴのタルトにいたっては

参加のご婦人方からは「こんな美味しいタルトは初めて」と感嘆の声が上がった。

いつもの会なら、杯を傾けてワイワイだが、この日ばかりは料理に専念して本来（？）の食べ歩き会に。それでもシャンパンにワインとグラスを干し、「料理がいいとお酒もおいしいわ」。

ほんのり酔った参加者の顔は輝いていました。

小林一則（昭55年政経）



宝塚・大阪両俱楽部 晩秋の座禅会

福巖寺（神戸市北区大沢町）に於いて11月28日に開催された宝塚・大阪両俱楽部の坐禅会に初参加しました。

岡村俊昭住職（昭52年法）と家人のお出迎えを受け、清々しい気持ちで入門。暫し裏山を観賞し、談笑したあと本堂に移り、ご住職より、坐禅についての修行や作法のほか、自然に従う空の世界や鼻で静かに吐いて吸うという呼吸法などのご法話を聞きました。

続いて坐禅の行です。20分程度でしたが、その間は空の世界と静寂に包まれ、別天地の心境でした。ただ、未熟のせいか長く感じまとまりました。本行が終わり、別室にて懇親食事会。待つてました。

三田地方の実り豊かな素材をふく木みる
福巖寺 枯木 紅葉 七変化
坐禅の気 円の窓より
西矢晴雄（昭38年政経）

早稲田順位表

順位	OUT	IN	グロス	HDCP	NET
1 南 仁秀	42	44	86	14.4	71.6
2 竹田雅幸	37	39	76	2.4	73.6
3 池部 亨	46	45	91	16.8	74.2
4 平田房夫	40	43	83	8.4	74.6
5 前田 修	55	48	103	27.6	75.4
6 人見 亨	45	50	95	19.2	75.8
7 中村宣史	59	48	107	31.2	75.8
8 久木康文	40	42	82	6.0	76.0
9 柏木行道	48	51	99	22.8	76.2
10 森元 泉	50	47	97	20.4	76.6
11 砂川功次	52	56	108	31.2	76.8
12 徳井隆一	55	58	113	36.0	77.0
13 中西克昌	49	51	100	21.6	78.4
14 佐々木茂	51	52	103	24.0	79.0
15 竹田雅広	46	48	94	14.4	79.6

11月13日、奈良県五條市のシップレカントリークラブで、早稲田26名、同志社26名の計52名が参加して開催されました。当団は、季節はずれの中でも、晴れているはすなのに曇りという天候で、やや肌寒い中での開催となりました。

早同上位15名のNET合計による団体戦は、早稲田の1140・6に対し、同志社は1121・0。9回目となる今回は、同志社が昨年に統いて勝利し、通算の対戦成績は早稲田の4勝5敗と1つ負け越しとなりました。なお、個人戦は同志社の坂光司さん(昭34年卒)がNET70・8で優勝されました。

同志社とのゴルフ会は年1回開催していますので、みなさまの参加をお待ちしています。

前田 修(金6年政経)



第9回 早稲田VS同志社ゴルフコンペ

名将野村元監督を囲む会



稻門野球部の名将野村徹・元監督(昭36年政経)を囲む会が1月26日、大阪市都島区の太閤園で開かれ、約70人のOBや俱楽部会員らが参加。現役のころの早慶6連戦(昭35年)の名勝負やプロ球界を代表する青木宣親(ヤクルト)、鳥谷敬(阪神)、和田毅(ソフトバンク)の3選手の育成秘話、斎藤佑樹投手はじめ最近のワセダ野球の話題など名将の熱いトークに酔いしれた。

野村元監督は、大阪府立北野高から進学した頭脳派捕手。4年秋のリーグ戦で東京六大学野球史上に金字塔として燐然として輝く早慶6連戦でマスクをかぶった。平成11年に第16代監督に就任し、6年間の在任中、早稲田史上初の4連覇、10戦全勝優勝を果たすなどワセダの黄金時代を築いた。



この日は大内英男さん(昭36年商)らが世話を人となって企画。野村元監督は、イチロー2世とまで称される青木は早稲田に来るまでは無名の選手だったことや、球界屈指の好投手の和田は入学時は128キの球速しかなかったが、彼なりの力学を研究して140キを超えるまでになった努力家であることなどを披露した。斎藤投手については、とても頭がよく、プロでも活躍するだろうと評し、加えてドラフト1位の大石、福井両投手も大いに期待できると太鼓判を押した。

(広報委員会)

大阪早稲田倶楽部 早稲田大学校友会大阪府支部

